

2024年8月 東京地区百貨店売上高概況

2024年9月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 210億円余
2. 前年同月比(増減率)	6.6%(36か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭4.9%(90.3%) : 非店頭25.6%(9.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年7月対比±0店) (前年同月比: ±0店)
5. 総店舗面積	672,961㎡ (前年同月比: -7.7%)
6. 総従業員数	13,191人 (前年同月比: -4.3%)
7. 3か月移動平均値	1-3月 11.7%、2-4月 13.2%、3-5月 12.9%、 4-6月 14.8%、5-7月 13.7%、6-8月 10.5%

[参考] 2023年8月の売上高増減率は10.0%

【特徴】

8月の東京地区は、売上高が6.6%増と前年実績をクリアしたが、入店客数は2.6%減と前年を下回った。記録的な猛暑や台風の影響等で出控え傾向が見られたものの、引き続き高付加価値商材やインバウンドが牽引した他、盛夏商材が好調に推移した。夏休みのファミリー向け催事や外商顧客向け催事等も盛況だった。2019年比は4.8%増。商品別では家庭用品、食料品を除く3品目で前年をクリアした。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(10.2%増) : 長引く暑さからカットソー、Tシャツ等夏物衣料への需要が高かった他、婦人服ではブラウス等秋口まで着られるアイテム、紳士服では Poloシャツ等カジュアル衣料が動く。夏期休暇の需要を受けスポーツやアウトドア関連商材も好調に推移。

身のまわり品(10.9%増) : ハンドバッグや財布を中心にラグジュアリーブランドが増勢を維持。インバウンドは、為替相場が円高傾向を示すも購買意欲に大きな変化はなく、好調継続。猛暑からサンダルや日傘、帽子等盛夏アイテムが引き続き高伸。

雑貨(7.4%増) : 美術・宝飾・貴金属では外商顧客向け催事等で時計が好調に推移。化粧品は猛暑から秋物の季節需要は鈍いものの、口紅等一部商材は堅調。家庭用品では、南海トラフ注意報の影響でECを中心に防災用品が動く。

食料品(4.5%減) : 入店客数の減少と連動し、全品目でマイナスとなったものの、菓子は帰省土産やインバウンドの手土産需要等もあり堅調。

9月足元動向 : 前年比4.7%減(9/18時点)で推移。2019年比では5.0%増。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.8日 (前年同月比 +0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数15店舗)
 - ①増加した: 11店、②変化なし: 1店、③減少した: 3店
- (3) 8月歳時記(夏休み、お盆)の売上(同上/有効回答数10店舗)
 - ①増加した: 6店、②変化なし: 4店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年8月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	121,066,292	100.0	6.6
紳士服・洋品	7,660,488	6.3	14.2
婦人服・洋品	17,851,586	14.7	11.2
子供服・洋品	1,394,256	1.2	-4.6
その他衣料品	1,214,589	1.0	-7.1
衣 料 品	28,120,919	23.2	10.2
身のまわり品	23,216,436	19.2	10.9
化粧品	11,893,120	9.8	7.6
美術・宝飾・貴金属	14,997,220	12.4	7.7
その他雑貨	4,647,674	3.8	5.8
雑 貨	31,538,014	26.1	7.4
家 具	985,829	0.8	-23.9
家 電	1,080,900	0.9	6.5
その他家庭用品	2,757,109	2.3	-0.3
家 庭 用 品	4,823,838	4.0	-4.9
生 鮮 食 品	3,227,212	2.7	-1.7
菓 子	7,925,171	6.5	-3.6
惣 菜	5,679,498	4.7	-7.3
その他食料品	7,734,564	6.4	-4.4
食 料 品	24,566,445	20.3	-4.5
食 堂 喫 茶	2,487,962	2.1	-6.7
サ ー ビ ス	2,160,651	1.8	-2.1
そ の 他	4,152,027	3.4	100.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商品券	1,058,077 千円	-10.6
従業員数	13,191 人	-4.3
店舗面積	672,961 m ²	-7.7

営業日数	30.8 日	前年	30.7 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は衣料品、身のまわり品、雑貨はプラスとなった一方、家庭用品、食料品はマイナスとなった。その他の品目は、紳士服・洋品が7か月連続、婦人服・洋品、化粧品が36か月連続でプラスとなったが、家具が11か月ぶりにマイナスとなったほか、生鮮食品が5か月連続、菓子、惣菜が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	6.6	—	36か月連続プラス
紳士服・洋品	14.2	0.8	7か月連続プラス
婦人服・洋品	11.2	1.6	36か月連続プラス
子供服・洋品	-4.6	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-7.1	-0.1	4か月ぶりマイナス
衣料品	10.2	2.3	35か月連続プラス
身のまわり品	10.9	2.0	36か月連続プラス
化粧品	7.6	0.7	36か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.7	0.9	15か月連続プラス*
その他雑貨	5.8	0.2	2か月ぶりプラス*
雑貨	7.4	1.9	36か月連続プラス
家具	-23.9	-0.3	11か月ぶりマイナス
家電	6.5	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-0.3	-0.0	6か月ぶりマイナス
家庭用品	-4.9	-0.2	6か月ぶりマイナス
生鮮食品	-1.7	-0.1	5か月連続マイナス*
菓子	-3.6	-0.3	2か月連続マイナス*
惣菜	-7.3	-0.4	2か月連続マイナス*
その他食料品	-4.4	-0.3	5か月連続マイナス*
食料品	-4.5	-1.0	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-6.7	-0.2	2か月連続マイナス
サービス	-2.1	-0.0	2か月ぶりマイナス
その他	100.8	1.8	3か月連続プラス
商品券	-10.6	-0.1	6か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>